

山下俊一氏「原発事故直後の福島市での講演」福島テルサ

2011.3.21

演題『福島県放射線リスクアドバイザーによる講演会』

—Y o u T u b e 動画 30分55秒 *書き起こし文の25分40秒以降を記載

25:40「唯一お願いしたいのは、皆さんと我々、あるいは皆さんと我々、あるいは皆さんと県、あるいは国の信頼関係の絆をつくるということです。今、何を信用していいのかと。今、皆さん方が最も信頼できるデータは何かということです。これは、好むと好まざるとに関わらず我々は日本国民です。日本は戦争に敗れ、そして原子力産業を支え今の復興を成し遂げたこの日本において、我々が少なくとも民主主義国家として信じなくてはいけないのは、国の方針であり、国から出る情報です。これをきちんとオーディット、監査して、正しいのか正しくないかを説明する機関がわが国にはありません。中立的に国の出す情報を正しいか正しくないかということを評価する機関がないんです。一方的な国寄り、一方的な反対、一方的な、即ち恣意が入ったり利益誘導の考え方が入るがために、国民は何となく不信、あるいは不安、疑いの目を向ける訳です。お墨付きがいるんですよ。水戸黄門が印籠を出すように、これは大丈夫だと。そういうふうな関係を、この福島原発（事故）を契機に日本は作り直す必要があります。残念なことにJCOの事故でもチェルノブイリの事故でも、それがなされてきませんでした。」

27:23「これから福島という名前は世界中に知れ渡ります。福島、福島、福島、何でも福島。これは凄いですよ。もう、広島・長崎は負けた。福島の名前の方が世界に冠たる響きを持ちます。ピンチはチャンス、最大のチャンスです。何もしないのに福島、有名になっちゃったぞ。これを使わん手はない。何に使う。復興です、まず。震災、津波で亡くなられた方々。本当に心からお悔やみを申し上げますし、この方々に対する対応と同時にいち早く原子力災害から復興する必要があります。国の根幹をなすエネルギー政策の原子力がどうなるか、私にはわかりません。しかし、健康影響は微々たるものだと言えます。ただ、いま決死の覚悟で働いている方々の被ばく線量、これを注意深く保証していく必要があります。ただ、一般の住民に対する不安はありません。しかしながら、それでも不安はある。誰に不安がある？女性、妊婦、乳幼児です。次の世代を背負う子ども達に対し、私たちは責任があります。だから全ての放射線安全防护基準は、赤ちゃんの被ばく線量を基準につくられています。いいですか？子どもを守るために安定ヨウ素剤の投与、あるいは避難・退避ということの基準は作られています。大人は二十歳を過ぎると放射線の感受性は殆どありません。もう限りなくゼロです。大人は放射線に対して感受性が殆どないということをまず覚えて下さい。そのくせ、一番心配するのは大人。これは間違いです。特に男は大間違い。わが身を省みれば、自分はタバコをのんだり、酒を飲んだるのに、放射線より遥かにリスクが高いのに。男はまず心配いらなです。守るべきは女性、女子ども、妊婦、乳幼児です。もし、この状態が悪くなるとすれば、逃げるのは妊婦と子どもでいいんです。男は戦わなくちゃ。復興に向けてここで福島県民として、会津の白虎隊です。そのくらいの覚悟はあって然るべきです。」

30:02「放射能の影響は、実はニコニコ笑ってる人には来ません。クヨクヨしてる人に来ます。これは明確な動物実験でわかっています。酒飲みの方が幸か不幸か、放射線の

影響は少ないんですね。決して飲めということではありませんよ。笑いが皆様方の放射線恐怖症を取り除きます。でも、その笑いを学問的に、科学的に説明しうるだけの情報の提供がいま非常に少ないんです。是非、今の私の話を聞いて、疑問が沢山あると思いますから沢山質問してください。これは講演会でも、抗議でもないんです。皆様と私のキャッチボールなんですね。」 30:55